

事務事業 No./名称	■サービス部門 教育-29 □支援部門		相談室事業							
主管課	教育センター	関連課								
分野名	学校教育									
目標 (目標値)	いじめや不登校・ひきこもり等の問題解決に向け、個々のもつ問題に対し、相談者がより満足度を得られるよう、他機関との連携を図った相談体制、支援体制の確立・充実を目指す。									
人口等のデータ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備考					
	人口	177,204人	177,161人	176,669人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯						
事業の対象者数	2,195件	2,170件	1,775件							
運営資源状況	決算値(千円)	18,034	17,757	17,958						
	(国・県)	8,694								
	(負担金等)	1								
	(一般財源)	9,339	17,757	17,958						
	人員配置数	2.9	3.0	3.0						
	人件費(千円)	26,005	27,595	28,446						
	協働のパートナー	教育センター ボランティア	教育センター ボランティア	教育センター ボランティア						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	44,039	45,352	46,405						
	市民1人当りの経費(円)	249	256	263						
	対象者1人当りの経費(円)	20,063	20,899	26,144						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒	平塚市	藤沢市	逗子市	茅ヶ崎市	小田原市	伊勢原市	座間市	三浦市	
	相談事業担当	子ども教育相談C	教育相談C	教育研究所	教育C	教育C	教育C	教育研究所	学校教育課	
	教育支援事業担当	子ども教育相談C	教育指導課	教育研究所	教育C	教育指導課	教育C	教育研究所	学校教育課	
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)			
目標	○	目標値	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施		
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	前年度に比し概ね質の高い相談・支援を実施した	前年度に比し概ね質の高い相談・支援を実施した	前年度に比し質の高い相談・支援を実施した					

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
相談室事業	645千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	相談室維持管理に関するもの			
相談指導事業	9,639千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	スーパーバイザー等を含み、相談に関するもの			
相談指導事業	1,339千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 △ ④公平性 ○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	訪問相談に関するもの			
教育支援教室事業	6,411千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	不登校児童・生徒のための教育支援教室(ひだまり)に関するもの			
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	多様化・複雑化してきている相談者の問題に対応するための多職種、多機関との更なる連携と継続した支援体制の構築と維持
課題解決のための取組	スクールソーシャルワークサポーター(県事業)を導入し、新たな視点を加えた支援体制構築の足がかりを作ることができた。
未解決の課題	心のふれあい相談員の時間増、スクールソーシャルワーカー・スクールソーシャルワークサポーターの更なる活用

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
	➡	②妥当性 ○		平成22年度に開始した近隣フリースクール等との連携も含め関連する諸機関、市長部局との連携強化を図るとともにスクールソーシャルワーカー・スクールソーシャルワークサポーターの配置時間の増加等の支援体制充実を目指す。	↓	課長等名
		③有効性 ○			A	課長(代理)
		④公平性 ○				越川雅之

(2面) 個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	タイムスコード	個別事業名	23年度予算	23年度決算値	個別事業の評価結果	
相談室事業	1,067	相談室維持管理委託	268,065	268,065	■適切	□見直し余地あり
相談指導事業	1,184	教育相談指導員報酬 5人	6,240,000	6,149,000	■適切	□見直し余地あり
		心のふれあい相談員謝礼	2,240,000	2,239,000	■適切	□見直し余地あり
		教育センタースーパーバイザー謝礼	280,000	280,000	■適切	□見直し余地あり
		メンタルフレンド謝礼	100,000	72,500	■適切	□見直し余地あり
		精神科医師相談謝礼	160,000	160,000	■適切	□見直し余地あり
相談指導事業	1,267	教育相談指導員(訪問指導員)報酬 1人	1,248,000	1,248,000	■適切	□見直し余地あり
教育支援教室事業	1,185	教育支援教室教育相談指導員報酬 4人	5,928,000	5,928,000	■適切	□見直し余地あり
主な個別事業					□適切	□見直し余地あり